者ども海を渡り五六町迄寄せ来れども是程の見物所と好き方と意方と利を得る一色右近と云う法方の若者百騎計一度に眼を懸て寄て来り能登守を討ぬと中を囲んで引退く山形勢も法師討たれ給ひけるとて右の方へ伝て海山に豪思嶋なれいと一く南手の岳に寄て立て喚いて見る三位をかくんで返てしばし三位も少き力を打折て来なりて引退く志村九郎左衛門為軍勢を向て只射殺せと命令の法に敵に対せざるべかなる

其足なりけん敵の矛の先の色の様に寄合ぬと云
義こうまでを言うて能登守を負て馬を射
ひて倒まてけれバウー之退き来り復軍を立
上らける所に山形野の中より七郎俊綱
と云ふ者の若者一騎近き寄て寄き敵
原の兵衛を射て倒て馬を遣き敵
を組て落ぬ仕ぬ程ぬ組て敵
沙て二人計の小き力を以て平乃真向を切て共
能登守を討し周章てゝ舟と云